

『モンキー』誌刊行継続と学芸活動活性化の要望書

財団法人 日本モンキーセンター

所長 岩本光雄 殿

c.c. 財団法人日本モンキーセンター役員 各位殿

謹啓 初夏の候、貴台におかれましてはますますご清祥のことと、御慶び申し上げます。

貴財団は、霊長類専門の動物園・博物館として 45 年にも及ぶ長い歴史を有し、霊長類に関する研究・教育普及に多大なる貢献をされて来られましたことは、当学会会員がひとしく認めるものです。貴財団の動物園・博物館活動のなかでも特に学芸・研究活動は、一般の動物園・博物館には例を見ない先進的なものと、国の内外より注目されています。当学会が発足しましたのも、ひとえに貴財団法人の活動とご支援のたまものと感謝しております。

貴財団法人のさまざまな活動の中にあつて、英文霊長類学専門誌 PRIMATES とならんで、博物館普及誌「モンキー」の発行は、まさに霊長類学の知見を国内に広げるうえで、ひじょうに大きく貢献していると認められます。通算 294 号にもおよぶモンキー誌を通覧すれば、霊長類に関するさまざまな知識が得られ、他のメディアには代え難い雑誌です。貴財団のホームページで既刊誌の全索引が公開されることで、モンキー誌の有用性はますます高まるものと期待されています。ところが、モンキー最新刊 (vol.44,Nos.3・4,通号 293・294)の 21 ページに、「休刊のあいさつ」があり、多くの当学会員が、驚きの念をもって読みました。

二年前、貴財団法人が廃止されるという報道に、当学会はいちはやく貴理事長宛に「存続要望書」を提出いたしました。そのかいあつて、廃止計画は取り下げられました。今回の休刊通知は、世上にはそれほどインパクトはないと認識されるかもしれませんが、私達は甚大なるインパクトと受け止めております。モンキー誌は博物館普及広報活動の中心にあたる存在であり、その休刊は貴財団法人の当該活動の大幅縮小を意味するものだからです。モンキー誌は建前上、友の会活動の一環として発刊されているものかもしれませんが、図書館等でモンキー誌を読む者も多数にのぼります。

モンキー誌が依拠する友の会活動が近年、縮小されてきたことも、当学会はひじょうに危惧しているところです。学芸専属担当者が年々、少数になっており、友の会例会が催されなくなったことに、それがうかがえます。この 10 年以上にも及ぶ不況で、さまざまな業務が活動を見直さざるを得ないことは当然ですが、ひろい意味での社会教育すなわち普及広報活動を縮小しないよう、御配慮頂きたく存じます。当学会は、モンキー誌の刊行継続と学芸活動の活性化こそが、貴財団法人の将来にとって大きな力となっていくことと信じております。今回の突然の休刊予告ですが、むしろこの期間に読者、あるいはこれまで例会に参加された一般市民会員の方々の意見を聴取するなどして、モンキーセンターの将来像を探るべきではないか、と考えます。またそうしたオープンな姿勢こそが、動物園・博物館として活性化することにつながるのではないのでしょうか。貴財団法人が率先してそのような活動方針を立てていただければ、霊長類学会といたしましても、学会誌を始めさまざまな広報活動、その他において、考えられる限りの支援を行う所存であります。

このように、この1年を休刊にむかっての時間とせず、新しい動物園・博物館活動を探る時間と捉えることで、モンキーセンターにとってもまた一般市民、そして研究にとっても良い結果をもたらすことになるのではないのでしょうか。さまざまな意見を集め、代替案を探ることを、学会としてお願い申し上げる次第です。

謹白

日本霊長類学会
会長 杉山幸丸